

「特別の教科 道徳」

教科化に向けた取組と授業改善 ～中学校版～



中学校では平成31年度から、「特別の教科 道徳」（道徳科）が実施されます。今年度中に学校全体で道徳教育を推進する土台をつくり、全面実施に備えることが必要です。

本パンフレットでは、教科化に向けた取組と授業改善、平成28、29年度における研究校の取組を紹介をします。

本パンフレットが道徳教育推進の一助になれば幸いです。

中学校の主な改訂

各学校においては、「特別の教科 道徳」（道徳科）の学習指導要領解説（平成29年7月）を確認しましょう。また、道徳教育の全体計画、授業改善、評価方法等について共通理解しましょう。

道徳教育の目標とそとえ、「道徳性を養う」としました。

道徳的諸価値について自分との関わりを含めて理解し、それに基づいて内省し、多面的・多角的に考え、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育てるといった趣旨を明確化しました。

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

A 主として自分自身に関すること

- [自主, 自律, 自由と責任]
- [節度, 節制]
- [向上心, 個性の伸長]
- [希望と勇気, 克己と強い意志]
- [真理の探究, 創造]



よりよく生きていくための資質・能力を培うという趣旨を明確化しました。

B 主として人との関わりに関すること

- [思いやり, 感謝] 2-(2)、(6)統合
- [礼儀]
- [友情, 信頼] 2-(3)、(4)統合
- [相互理解, 寛容]



C 主として集団や社会との関わりに関すること

- [遵法精神, 公德心] [勤労]
- [公正, 公平, 社会正義]
- [社会参画, 公共の精神]
- [家族愛, 家庭生活の充実]
- [よりよい学校生活, 集団生活の充実]
- [郷土の伝統と文化の尊重, 郷土を愛する態度]
- [我が国の伝統と文化の尊重, 国を愛する態度]
- [国際理解, 国際貢献]



4-(7)、(4)統合

D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

- [生命の尊さ]
- [自然愛護] 3-(2)から分離
- [感動, 畏敬の念]
- [よりよく生きる喜び]



指導要録に新設される道徳科の記入欄

※平成31年度からは必ず記入します。
※記入欄の様子は市町村によって異なる場合があります。

小学校児童指導要録（学考様式）（イメージ）		欄別	
学年	学期	1	2
1	上		
1	下		
2	上		
2	下		
3	上		
3	下		
4	上		
4	下		
5	上		
5	下		
6	上		
6	下		

そのために

- 生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を適切に設定しつつ、学習活動全体を通して見取ることが求められること
- 個々の内容項目ごとではなく、大きくりなまとまりを踏まえた評価とすること
- 他の生徒との比較による評価ではなく、生徒がいかにか成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として記述式で行うこと
- 特に、学習活動において生徒が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的諸価値の理解を基に自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視することが求められること

このほかに…

☆保護者への周知、理解と連携

- ・通知表に道徳科の欄の設定等を検討
- ・保護者と連携し、学習状況を共有

① 道徳科の目標

② 内容構成と22の内容項目

③ 評価

例1 左右分割

例2 上下分割

特別の教科 道徳

学習状況及び道徳性に係る成長の様子

中学校の授業改善

「考え、議論する道徳」への転換により
生徒の道徳性を養います

① 授業課題

道徳の時間は他教科に
比べ軽視されがち

登場人物の心情理解のみに偏った
形式的な指導になりがち

自信を持って道徳の授業が
できる教員が少ない

学校や教員によって
指導力の差が大きい

授業改善

わかりきったことを
言わせたり書かせたりする授業

② 授業実践

「自我関与が中心の学習」

教材の登場人物の判断や
心情を自分との関わりで多
面的・多角的に考えること
を通して、道徳的諸価値の
理解を深める。

「問題解決的な学習」

問題解決的な学習を通し
て、道徳的な問題を多面的・
多角的に考え、生徒一人一
人が生きる上で出会う様々
な問題や課題を主体的に解
決するために必要な資質・
能力を養う。

「体験的な学習」

役割演技や動作化などの疑
似体験的な表現活動を通して、
道徳的諸価値の理解を深め、
様々な課題や問題を主体的に
解決するために必要な資質・
能力を養う。

登場人物に自分を投影して、その判断や心情を考えることにより、道徳的価値の理解を深めることができます。



問題場面について生徒の考えの根拠を問う発問や、問題場面を実際の自分に当てはめて考えてみることを促す発問、問題場面における道徳的価値の意味を考えさせる発問などによって、道徳的価値を実現するための資質・能力を養うことができます。



問題場面を実際に体験してみることで、また、それに対して自分ならどのような行動をとるかという問題解決のための役割演技を通して、道徳的価値を実現するための資質・能力を養うことができます。



☆留意点☆

これらの指導方法は例示であり、それぞれが独立した指導の「型」を示しているわけではありません。それぞれに様々な展開が考えられ、例えば読み物教材を活用しつつ問題解決的な学習を取り入れるなど、複数の要素を組み合わせた指導を行うことも考えられます。指導に当たっては、学習指導要領の趣旨をしっかりと把握し、指導する教師一人一人が、学校や生徒の実態を踏まえて、授業の主題やねらいに応じた工夫、改善を加えながら適切な指導方法を選択することが求められます。

③ 指導工夫

「チーム・ティーチング」

校長や教頭、教職員の参加による指導や、他の教師と協力して行う「チーム・ティーチング」という方法があります。生徒の実態や授業の進め方を共通確認することができ、指導技術の向上を図ることができます。

「ローテーション授業」

原則学級担任が行う道徳授業を、学年間で指導する教材の担当教諭を決め、年に数回、交代で指導する「ローテーション授業」という方法があります。授業力向上につながるのと同時に、学級担任が生徒を客観的に見取り、新たなよさや成長の様子を把握することができます。

道徳教育における評価の意義

教師

教師が指導の目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料となるもの

生徒

自らの成長を実感し、意欲の向上につなげていくもの

指導に生かされ、**生徒の成長につながる**評価でなくてはならない。

評価のための具体的な工夫例

- 生徒の学習の過程や成果などの**記録**を計画的に**ファイルに蓄積**したもの
- 生徒が道徳性を養っていく過程で、生徒自身の授業中に見られる様子を記録した**エピソードを累積**したもの
- **作文やレポート、スピーチやプレゼンテーション**など具体的な学習の過程
- 生徒が行う**自己評価**や**相互評価** 等

「困難さの状態」を把握した道徳科の指導と評価への配慮

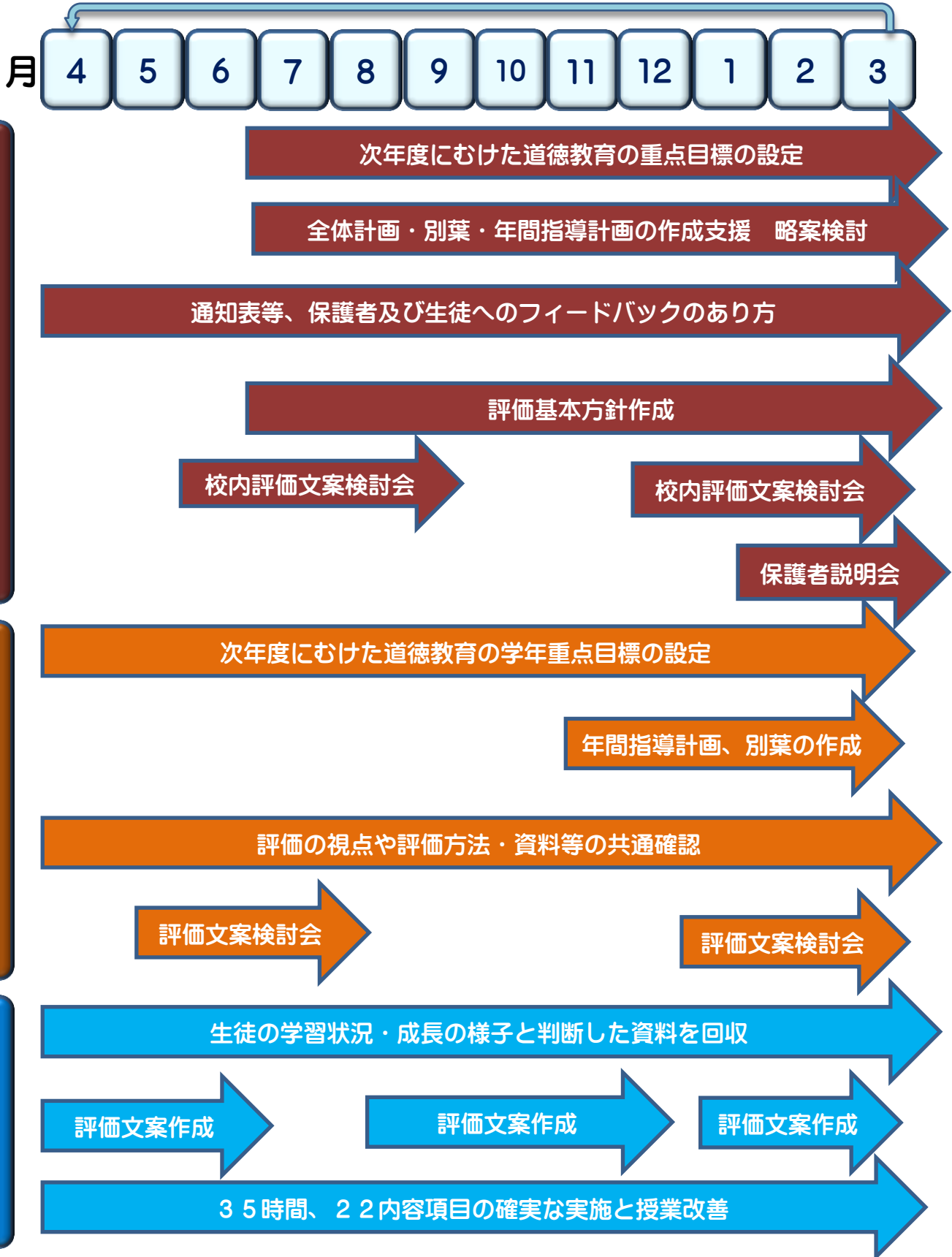
以下のような生徒に配慮し、授業でどのように見取るかを校内で検討していくことが必要です。授業者は、意図的に観察したり、指名したりして、評価できる根拠を集め、認め励ましましょう。

- ①発達障害のある生徒
- ②海外から帰国した生徒
- ③日本語習得に困難のある生徒 等



道徳科 評価のための年間サイクル

子供たちを認め励ますために、共通確認と諸準備を毎年行い、評価方法を磨きましょう。



心豊かに主体的に 学習に取り組む生徒の育成 ～話し合い活動を重視した 道徳授業の充実を目指して～

取組の概要

- 1 話し合い活動を重視した、「考え、議論する道徳」の授業の充実
- 2 学校教育活動全体を通して進めた道徳教育
- 3 全教職員による組織的・協働的取組(ローテーション授業)

具体的な取組

1 「考え、議論する道徳」の授業



資料:モラルジレンマ
手立て:発問の工夫、話し合いのルール他

2 学校教育活動全体を通して進めた道徳教育



取組: トイレ掃除 誕生学、校長講話、
天声人語、清掃活動、挨拶運動他

3 ローテーション授業

手立て:2学期より、道徳の時間を学年でそろえ、担外も含め学年職員で道徳の時間を担当した。
1クラスあたり、6時間分の指導案を夏休みに作成し、授業実施した。

- メリット: ①同じ授業を複数回できるので、授業の改善ができる。
②全職員体制で道徳の授業について考えることができる。
③同学年の道徳の授業を参観することができる。
④全職員のスキルアップになる。

主な効果・成果

- 1 話し合い活動を取り入れることにより、自分自身の考えをより深めることができ、規範意識の向上、自立心や他者を思いやる心、礼節等の道徳性を育むことに繋がった。
- 2 全教職員による組織的・協働的取組(ローテーション授業)を通して、道徳における教師の授業力が高まった。教師が多面的に物事を捉え、道徳の内容充実に繋がった。

「誠実で心豊かな生徒を育成する 道徳教育」

～思考と対話のある授業づくりを通して～

取組の概要

- 1 道徳授業づくりの理解
- 2 道徳授業の実践力向上の手立て
- 3 特別活動の充実

具体的な取組

1 道徳授業づくりの理解

(1)「道徳授業に関するアンケート」の活用 (2)各種研修会への参加

2 道徳授業の実践力向上の手立て

(1)「読み物資料分析シート」の活用 (2)「読み物資料分析会」の実施
(3)「道徳授業で大切なポイント」の活用 (4)ローテーション道徳授業の実施
(5)「道徳授業づくりで試行錯誤したこと」の作成

3 特別活動の充実

(1)特別活動と道徳教育との関連を明らかにし、それらを意識し、生徒会活動や学校行事など生徒のアクティブな人間関係の中での心豊かな生徒の育成を図った。

例:①応援合戦(全体)②合唱コンクール(全体)③職場体験学習(2学年)
④自然体験学習(1学年)

主な効果・成果

○道徳の授業に限らず、他の教科でも「思考と対話のある授業」の視点を意識した授業改善が進められている。

○「読み物資料分析シート」の活用や資料分析会において、内容項目を踏まえ、「子どもたちに何を考えさせたいのか」などねらいを明確にすることをとおして、中心発問や基本発問の設定の改善につながった。

○特別活動の方法原理である「なすことによって学ぶ」が道徳教育の側面からも有効であることの認識を深めることができた。

「夢をめざし じりつ・共生
できる生徒の育成」
～道徳の授業づくり・評価を通して～

取組の概要

- 1 道徳教育の理論研究と授業実践
- 2 道徳科の評価の研究

具体的な取組

1 道徳教育の理論研究と授業実践

(1)教材の共有化(内容項目ごとの資料
《指導案》ファイルを職員室に設置)



(2)教科開きの共通実践
(道徳開きの講習会:4月)



(3)指導内容項目の完全実施を目指したチェック表の活用

(4)研究授業・授業研究会の実施(6月:2学年 11月:3学年 1月:1学年)



(5)ローテーション授業の取組

- ① 火曜日の5校時に一斉道徳として実施
- ② 学年を2つのグループに分け、担任、担外を含め学年職員でローテーションを実施

2 道徳科の評価の研究

- (1)研修会、研究発表会等(全国道徳教育研究大会 他)への参加
- (2)評価についての理論研究と共通確認

主な効果・成果

- 1 「特別の教科 道徳」に関して共通確認・共通実践を行い、職員の理解が深まった。
- 2 ローテーション授業の実践を通して、教材研究の深まりが見られ、生徒の関心が高まった。
- 3 評価に関する理論研修を通して、評価方法の検討を進めることができた。

「主体的・対話的で深い学び」を実現する道徳教育の取組 ～道徳的価値の自覚を深める発問の工夫を通して～

取組の概要

- 年間計画に沿った35時間24項目のバランスのとれた授業の実施
- 「特別の教科 道徳」について理論研究
- 町教育の日公開授業にむけて、学年ごとの道徳授業づくり

具体的な取組

理論研究



「考え、議論する道徳」授業とは



校区内小学校の授業研究会への参加

2. 教材分析の視点について
③ H29南星中の道徳授業づくりのポイント

小学校の実践から参考にできることを2点に絞りました

① 道徳的価値の自覚を深める中心発問と問い返しの発問の工夫
・ 自分自身の問題として考えさせる発問 「自分だったら～」
・ 多面的・多角的に考えさせる発問 いろいろな考え方・意見

② ふり返りの3つの視点と書く時間の確保
・ 今日授業で学んだこと・気づいたことは何か
・ これまでの自分はどうか
・ これからはどうしていきたいか 書くことで自己内対話が深まる

本校の道徳授業づくりのポイント

道徳授業づくりと実践



学年ごとの教材分析



「考え、議論する道徳」授業の実践



ふり返りの時間の確保

主な効果・成果

- 「道徳の時間に、自分の考えや意見を伝えることができた」という生徒が、年度当初65.9%から年度末75.8%と増加した。考えの交流の時間が確保されたことや中心発問や問い返しの工夫の成果が表れている。
- 全校体制による取組を通して、全職員の道徳授業への意識向上につながった。年間計画に沿って道徳の授業を実施できた。

平成29年度(1年次)

「主体的・対話的で深い学び」 を実現する道徳教育の取組 ～授業構成と発問を工夫した授業づくりをおして～

南風原町立南風原中学校

〒901-1111

沖縄県島尻郡南風原町字兼城780

TEL:098-889-3911

FAX:098-889-3206

https://js-haeb8@pub.haebaru.okinawa.jp

取組の概要

- 全校体制で、35時間の道徳の授業実践を通して、指導力の向上と授業改善
- 学校教育全体を通じた道徳教育(いじめゼロ宣言・トイレ美化など生徒会活動の充実)

具体的な取組

授業構成と発問を工夫した道徳の授業改善

道徳的価値を方向付ける「とくたね(身近な題材)」を導入に取り入れる。教材を読み、ねらいとする道徳的価値を追求する発問を行い、話し合い活動などを通して、自己を見つめさせる。終末では「とくうた(音楽)」を流しながら、「黄金言葉(偉人などの名言)」を取り入れ、ねらいとする道徳的価値についてまとめる。この授業構成を全職員で共通理解し、この構成を取り入れた「とくあん(指導略案)」を校内研修で作成し、共有化を図った。

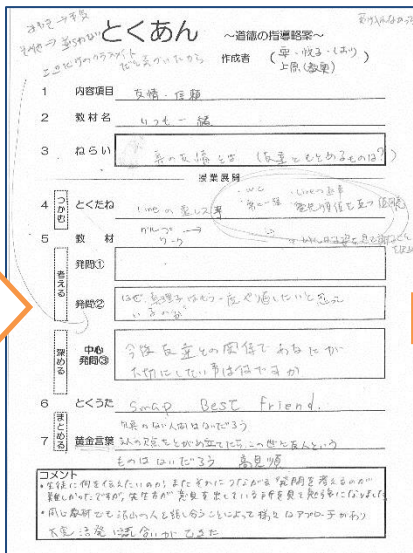
みんなで学び

みんなで作り

みんなでする



教材研究・指導案作り



とくたね・とくあんの共有化



授業研究会(小中連携)



とくうたの共有化

主な効果・成果

学校評価アンケートの前年度との比較より

対象	評価項目	平成28年度(11月)	平成29年度(12月)
生徒	道徳の時間は、自分の心を成長させてくれる。	79.6	87.3
教師	内容項目を計画通りに実施し、豊かな心を育てる道徳教育を行っている。	72.7	94.9

道徳科の教科化にむけて、素朴な疑問にお答えします

Q 道徳科になると、教科書を使用することになりますが、必ず教科書だけを使わないといけないのですか。これまで作成した自作教材は使用できないのですか。

答 教科書は「主たる教材」であり、教科書以外の教材を使用することもあります。

例えば、これまで配布されていた「私たちの道徳」、文部科学省が著作権を有するものや県教育委員会が発行した教材「守礼」、各地域に根ざした教材、学校で独自に作成した教材を使用することが考えられます。また、多様な教材を併せて使用することがあります。さらに、読み物教材以外にも、映像、実話、写真、劇、漫画、紙芝居等、多彩な形式の教材を使用することもあります。

これらの使用については、校長と相談をしながら決定した上で、年間指導計画に明記し、学年統一して使用できるようにしましょう。



Q 最近、ローテーション道徳を実施する学校があると聞きました。ローテーション道徳を実施する場合、何に留意すればよいですか。

答 ローテーション道徳を実施する際は、全職員が主体的な参画意識を持つことが大切です。

道徳科の指導の全てを学級担任に任せるのではなく、効果的と考えられる場合に他の教師などの協力を得ることが考えられます。

例えば、年に数時間、他の教員が自分の得意分野を生かした指導に当たることができる、1つの教材を何度も指導するなど機会を作るなどの年間指導計画を工夫することができます。

その際、原則として担任はT2で入ることが望ましいとされています。

理由として、担任以外の教員が指導することにより、生徒の新たなよさや成長の様子を見取ることができたり、生徒を複数の教員で見取り、客観的な判断ができたりするからです。また、教員の積極的な指導力向上も期待されます。

以上のことから、学校の実情に合わせて効果的な実施を検討しましょう。



Q 年間指導計画は簡単に変更できないと聞きましたが、その理由は何ですか。

答 年間指導計画は、学校教育計画として意図的、計画的に作成されたものであるからです。

年間指導計画は、指導者の恣意による不用意な変更や修正は行われるべきではありません。変更や修正を行う場合は、生徒の道徳性を養うという観点から考えて、より大きな効果を期待できるという判断を前提として、学年などによる検討を経て校長の了解を得ることが必要です。

なお、年間指導計画の弾力的な取扱いについては、次のような場合が考えられます。

①時期、時数の変更 ②ねらいの変更 ③教材の変更 ④学習指導過程、指導方法の変更

チェック欄
できたら

【主として学校全体で取り組んでおくこと】

- 1 新学習指導要領、学習指導要領解説の確認
 - ①要領等の資料配付、読み合わせ等による共通確認
- 2 道徳教育全体計画の策定
 - ①学校の道徳教育の目標の明確化
 - ②学校の重点目標の設定
 - ③各学年の重点目標の設定
 - ④重点内容項目の設定
- 3 通知表欄の設定の検討
- 4 道徳ノート等の検討
 - ①ノート、ワークシート、ファイル等の用意
 - ②個人情報への取扱い方
- 5 道徳教育 実施の管理 (管理職、道徳教育推進教師を核として)
 - ①道徳科の時数確保
 - ②内容項目完全実施の確認方法
 - ③道徳科及び道徳教育資料の保管場所の確保
 - ④保護者、地域への周知の在り方の検討
 - ⑤職員、生徒、保護者への意識調査の検討

【主として各学年で取り組んでおくこと】

- 1 別葉の作成
 - ①別葉様式の検討、確認
 - ②重点目標に係る内容項目の洗い出し
 - ③採択された教科書教材の位置づけ
 - ④効果的な内容項目配置の検討
 - ⑤他教科、領域等との関わりの確認
- 2 年間指導計画の作成 *採択教科書を確認し作成
 - ①重点目標に関わる具体的な指導方針の検討
*内容項目実施点検表を兼ねると効果的
 - ②ローテーションやT T等の指導形態の工夫と計画案作成
- 3 1時間ごとの指導略案の作成 (当該教育委員と相談) *採択教科書を確認

【その他、取り組んでおくこと】

- 1 授業改善に係る学習会
 - ①校内研修による授業研究会
 - ②授業公開 (校内・校外)、授業参観
 - ③授業展開の工夫の検討
*読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習
*問題解決的な学習
*道徳的行為に関する体験的な学習 等
 - ④評価方法の確認
(子供の変容を見取る視点の共通確認、学習の場面や様子、評価資料等)